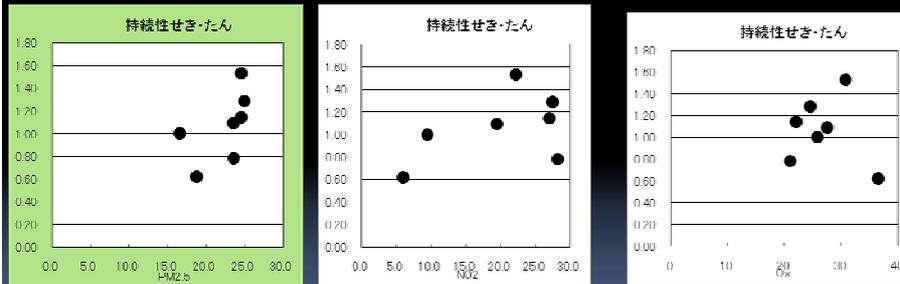


繰り返し調査に基づく解析

—調整済みオッズ比と大気汚染濃度との関係—

【保護者】



29

長期影響調査のまとめ

- 小児の呼吸器症状等の有症状況及び喘息様症状の発症と関連していることを示す疫学的知見は得られなかった。
- 保護者における持続性の咳や痰症状の有症状況にPM_{2.5}をはじめとした大気汚染物質への曝露が関連している可能性が示唆された。
 - この影響がPM_{2.5}単独のものであるか、PM_{2.5}と相関する共存汚染物質による見かけのものであるか、もしくはPM_{2.5}とこれらの共存汚染物質の複合的影響であるかなど不明な点が多い。
 - 断面調査ないしその繰り返し調査であるという制約

30

今後の課題

- 個人曝露量評価
 - 個人曝露量に関わる各種要因の検討
 - 実測とモデル開発
 - パネル研究に対応した個人曝露量調査
- 短期影響調査
 - 医療機関への受診・入院、救急外来への受診、循環器系の諸指標
 - 高感受性集団
 - 今回取り上げた影響指標について結果の一致性
 - 今回取り上げていない健康影響
 - 死亡ではなく発症時における曝露との関連性等
 - 統計モデル、方法論
 - 粒径範囲、成分
- 長期影響調査
 - 広範囲の曝露レベルで、かつ多数の対象者についての大規模な長期影響長調査
 - 高感受性集団
 - 粒径範囲と成分